

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：37704

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K14166

研究課題名（和文）保育内容5領域に関する保育者効力感と保幼小接続を意識したケアリングの関連性の検討

研究課題名（英文）The relationship between preschool and nursery teachers' efficacy regarding the five areas of child's development and caring with awareness of the cooperation among kindergartens and elementary school

研究代表者

井上 祐子（Inoue, Yuko）

鹿児島純心女子大学・人間教育学部・准教授

研究者番号：80713700

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー測定尺度の開発を目的とした。研究者らは、文部科学省（2016；2017；2018）等を参考に、PNTCS-QAの因子構造モデルを仮定した。このモデルの構成概念妥当性を確認的因子分析にて、また信頼性をCronbachの信頼性係数にて解析した。その結果、PNTCS-QAの信頼性・妥当性が十分であることが確認された。今後、この研究結果を基礎に、保育における職業能力の客観的評価や研究に活用していくことが望まれる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回開発したPNTCS-QAでは、「育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー」に関して、一次元性を持つ項目群が選定されているとともに、確認的因子分析による因子構造モデルの適切さが検証されている。このようなPNTCS-QAは、保育者のコンピテンシーの水準に対する客観的な評価、また、育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシーが、子ども達の円滑な保幼小接続を促進していくという概念との因果性の検討などに活用でき、教育や実践に資する知見の蓄積にとって貢献できるものと推察される。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to development the preschool and nursery teachers' competency scale on "The qualities and abilities that the preschool and nursery teachers want children to bring up (PNTCS-QA)". We hypothesized the factor structural model of PNTCS-QA (three factors and a second-order factor model) using the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (2016; 2017; 2018) et al. We analyzed construct validity with confirmatory factor analysis and reliability with Cronbach's alpha reliability coefficient. As a result, it's confirmed to be adequate reliability and validity of PNTCS-QA. In the future, it is hoped that the result of this research will be used for objective evaluation and research of vocational ability in childcare.

研究分野：子ども学および保育学関連

キーワード：育みたい資質・能力 保育者 コンピテンシー 尺度開発 確認的因子分析

1. 研究開始当初の背景

保育者効力感に関連する測定尺度において「人間関係」に関する保育者効力感に限定されていること(西山 2005; 西山 2006)、保育者を対象としたケアリングに関連する測定尺度を用いた研究は見当たらないこと(井上ら 2019)、保育者効力感を独立変数とした先行研究においてケアリングを従属変数とした研究が見当たらないこと(井上 2014)から、保育者が保育における職業能力の自己点検・評価を行うことができるよう、保育者効力感、及びケアリングの数量化が可能な尺度を開発するとともに、保育者効力感とケアリングの関連性を明らかにすることが急務であると考えた。

一方、補助事業期間中、COVID-19 の世界的な感染拡大が続いており、研究対象者が所属する認可保育所及び幼保連携型認定こども園においては、休園や登園自粛、園児・保育者・保護者の安全の確保、子どもたちの学び育つ権利の保障等、非常に難しい課題に直面していた。本研究では、非常に難しい課題に対応する研究対象者にかかる負担を軽減する一方策として、複数回の調査による「保育者効力感、及びケアリングの数量化が可能な尺度の開発」及び「保育者効力感とケアリングの関連性の検討」から、横断的調査で得たデータを用いた尺度開発に焦点を当てて、分析する変数間に統計学的に有意な関連性を見出すことにした。具体的には、保育の質の向上に職場内で取り組むための示唆を得ることをねらいとして、産業界より若年労働者を供給する中心的な役割を担うようになった大学に対し、職業人としての基礎能力の育成を求めようになってきている現状、及び企業の採用・人事の面においてコンピテンシー概念が導入されている現状(文部科学省 2008:12)を鑑みて、保育者の潜在能力及び顕在能力(保育者のコンピテンシー)に着目することとした。

保育者が、子どもたちの学び育つ権利の保障等、非常に難しい課題に直面している中、保育者の潜在能力及び顕在能力(保育者のコンピテンシー)について、特に、教育要領(文部科学省 2017)、保育指針(厚生労働省 2017a)、教育・保育要領(内閣府 2017)において示された概念規定に即した上で、幅広い領域におけるコンピテンシーの概念やその因子構造を参考に、幼児教育・保育の領域におけるコンピテンシーの概念を構築するとともに、その概念が測定できる測定尺度を開発して、評価や研究に用いて教育や実践に資するエビデンスを蓄積していくことは喫緊の課題であると推察した。

2. 研究の目的

本研究は、保育の質の向上に資する資料を得ることをねらいとして、育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシーを測定する尺度(Preschool and nursery teachers' competency scale on "The qualities and abilities that the preschool and nursery teachers hope children to bring up." 以下、PNTCS-QA とする)の開発を目的とした。

3. 研究の方法

(1) 調査方法

調査内容は、基本属性(保育所での勤続年数・幼稚園での勤続年数・認定こども園での勤続年数・性別・年齢)と、育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシーに関連する項目で構成した。

本研究では、PNTCS-QA の開発において、「育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー」を、「保育目標を達成するための援助を遂行する能力」と定義し、文部科学省(2016; 2017; 2018)、厚生労働省(2017a; 2018a)、内閣府(2017; 2018)、スペンサーら(=2011:12-4)を参考に、3つの下位概念(「保育者による子ども達の『知識及び技能の基礎』『思考力、判断力、表現力等の基礎』『学びに向かう力・人間性等』を育むための一貫した反応」)で構成した。それら下位概念の測定には、文部科学省(2016; 2017; 2018)、厚生労働省(2017a; 2018a)、内閣府(2017; 2018)を参考に、「知識・技能の基礎を育む保育者のコンピテンシー」として10項目、「思考力、判断力、表現力等の基礎を育む保育者のコンピテンシー」として6項目、「学びに向かう力・人間性等を育む保育者のコンピテンシー」として13項目をあらかじめ準備した。なお、質問項目に関する回答は、先行研究(Spencer ら=2011:12-4)を参考に、「1点:していない」「2点:どちらかといえばしていない」「3点:どちらかといえばしている」「4点:している」の4件法で求め、得点が高いほど、コンピテンシーの度合いが高くなるよう数値化した。

(2) 調査対象と倫理的配慮

調査対象は、A県にある認可保育所及び幼保連携型認定こども園581カ所に所属する保育者であり、所属長に選定を依頼した。なお、本調査は、研究代表者が所属する機関の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

(3) 解析方法

まず、冗長性の高い測定項目を削除することを目的に、育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー29項目間の多分相関係数(ポリコリック相関係数)を算出し、その数値が0.8を上回る項目ペアのどちらか一方を削除した。その後、残された項目において、尺度の内的整合性を低下させる項目の削除を企図して、修正済み項目合計相関係数(CITC: Corrected Item Total Correlation)を算出し、その値が0.4未満を項目削除の基準とした。その後、前記方法に従

って修正された PNTCS-QA の因子構造モデル (3 因子二次因子モデル) の構成概念妥当性を確認的因子分析にて、また信頼性を Cronbach の 信頼性係数にて解析した。

前記の因子構造モデルのデータに対する適合度の判定は、適合度指標 Comparative Fit Index (CFI) と Root Mean Square Error of Approximation (RMSEA) を参考に行った。CFI は 0.9 以上、RMSEA は 0.1 以下であれば、適合度が良好 (豊田 2003: 123-4) とされる。また、パラメータの推定には重みづけ最小二乗法の拡張法 (Weighted Least Squares Means and Variance Adjusted: WLSMV) を使用し、推定されたパラメータの有意性は検定統計量の絶対値が 1.96 以上 (有意水準 5%) を示したものを統計学的に有意であると判断した (Peek 2000)。

以上の解析には SPSS Statistics 22.0、M-Plus8.5 を使用した。統計解析には回収された 316 名の調査票のうち、回答に欠損を有さない 297 名のデータを使用した。

(4) 結果

分析対象の属性分布

集計対象者の基本的属性を表 1 に示した。

表 1 集計対象者の基本的属性 (n=297)

		単位: 名 (%)			
性別		認定こども園での勤務年数		資格・免許	
男性	18 (6.1)	なし	185 (62.3)	保育士	293 (98.7)
女性	279 (93.9)	1年以下	16 (5.4)	幼稚園教諭	256 (86.2)
年齢	平均 ± 標準偏差 (範囲)	1年超~2年	25 (8.4)	保育教諭	55 (18.5)
34.8歳 ± 2.3歳 (20-69)		2年超~3年	19 (6.4)	小学校教諭	34 (11.4)
保育所での勤務年数		3年超~4年	35 (11.8)	ホームヘルパー	13 (4.4)
なし	34 (11.4)	5年超~10年	13 (4.4)	介護福祉士	6 (2.0)
1年以下	2 (0.7)	10年超	4 (1.3)	中学校教諭	6 (2.0)
1年超~2年	4 (1.3)	幼稚園での勤務年数		社会福祉主事	4 (1.3)
2年超~3年	14 (4.7)	なし	236 (79.5)	高校教諭	3 (1.0)
3年超~4年	50 (16.8)	1年以下	8 (2.7)	司書	2 (0.7)
5年超~10年	62 (20.9)	1年超~2年	11 (3.7)	特別支援学校教諭	2 (0.7)
10年超	131 (44.1)	2年超~3年	11 (3.7)	レクリエーション	
		3年超~4年	13 (4.4)	インストラクター	2 (0.7)
		5年超~10年	12 (4.0)	栄養士	1 (0.3)
		10年超	6 (2.0)	認定心理士	1 (0.3)
				発達支援コーチ	1 (0.3)
				保育心理士	1 (0.3)
				養護教諭	1 (0.3)

PNTCS-QA の回答分布と質問項目に対する検討

質問項目に対する回答分布は表 2 に示した。まず、質問項目 29 項目の各項目間の多分相関係数を算出したところ、その数値が 0.8 以上は 6 ペアであった (表 3)。このうちのいずれか一方の 6 項目 (x1、x11、x19、x20、x22、x28) を削除した。次に、前段階において削除された 6 項目を除く 23 項目の修正済み項目合計相関 (CITC) を算出した。この結果、2 項目 (x18、x26) が 0.4 未満であったため、これらの項目を削除した (表 2)。上記の分析過程で 8 項目を削除し、最終的に 21 項目が残った。

表 2 育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシーに関する回答分布

	回答カテゴリ				CITC
	していない	どちらかといえ ばしていない	どちらかといえ ばしている	している	
					0.4未満
知識・技能の基礎を育む保育者のコンピテンシー					
x1 健康な生活に必要な習慣に気付くように援助する	0 (0.0 %)	3 (1.0 %)	125 (42.1 %)	169 (56.9 %)	0.300
x2 安全な生活に必要な習慣に気付くように援助する	0 (0.0 %)	3 (1.0 %)	125 (42.1 %)	169 (56.9 %)	0.300
x3 清潔になる心地よさを感じるように援助する	0 (0.0 %)	2 (0.7 %)	106 (35.7 %)	189 (63.6 %)	0.300
x4 危険な場所が分かるように援助する	1 (0.3 %)	2 (0.7 %)	94 (31.6 %)	200 (67.3 %)	0.300
x5 身近な人と関わる心地よさを感じるように援助する	0 (0.0 %)	16 (5.4 %)	142 (47.8 %)	139 (46.8 %)	0.300
x6 身の回りに様々な人がいることに気付くように援助する	1 (0.3 %)	12 (4.0 %)	143 (48.1 %)	141 (47.5 %)	0.300
x7 季節の変化を感じるように援助する	0 (0.0 %)	6 (2.0 %)	124 (41.8 %)	167 (56.2 %)	0.300
x8 文字を使う意味に気付くように援助する	4 (1.3 %)	75 (25.3 %)	149 (50.2 %)	69 (23.2 %)	0.300
x9 交通標識の意味に気付くように援助する	11 (3.7 %)	103 (34.7 %)	137 (46.1 %)	46 (15.5 %)	0.300
x10 生活の中で必要な言葉が分かるように援助する	0 (0.0 %)	4 (1.3 %)	125 (42.1 %)	168 (56.6 %)	0.300
思考力、判断力、表現力等の基礎を育む保育者のコンピテンシー					
x11 身近にある材料を使って、自分のイメージを表現するように援助する	1 (0.3 %)	42 (14.1 %)	168 (56.6 %)	86 (29.0 %)	0.300
x12 身近にある材料を使って、自分のイメージを表現するように援助する	1 (0.3 %)	42 (14.1 %)	168 (56.6 %)	86 (29.0 %)	0.300
x13 したいこと、してほしいことを言葉で表現するように援助する	0 (0.0 %)	91 (30.6 %)	205 (69.0 %)	1 (0.3 %)	0.300
x14 感じたこと、考えたことを動きで表現するように援助する	5 (1.7 %)	110 (37.0 %)	137 (46.1 %)	45 (15.2 %)	0.300
x15 感じたこと、考えたことを音で表現するように援助する	22 (7.4 %)	158 (53.2 %)	99 (6.1 %)	18 (6.1 %)	0.300
x16 感じたこと、考えたことを言葉で表現するように援助する	2 (0.7 %)	5 (1.7 %)	146 (49.2 %)	144 (48.5 %)	0.300
学びに向かう力・人間性等を育む保育者のコンピテンシー					
x17 進んで運動するように援助する	0 (0.0 %)	11 (3.7 %)	117 (39.4 %)	169 (56.9 %)	0.300
x18 手洗いの場面で行動するように援助する	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	44 (14.8 %)	253 (85.2 %)	0.300
x19 進んで運動する行動するように援助する	2 (0.7 %)	1 (0.3 %)	42 (14.1 %)	252 (84.8 %)	0.300
x20 進んで運動する行動するように援助する	0 (0.0 %)	3 (1.0 %)	58 (19.5 %)	234 (79.4 %)	0.300
x21 自分の力で行動することの充実感を味わうように援助する	0 (0.0 %)	16 (5.4 %)	142 (47.8 %)	139 (46.8 %)	0.300
x22 やり通った喜びを味わうように援助する	0 (0.0 %)	2 (0.7 %)	73 (24.6 %)	222 (74.7 %)	0.300
x23 友達と一緒に活動する楽しさを味わうように援助する	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	66 (22.2 %)	231 (77.8 %)	0.300
x24 周りの人へ思いやりをもつように援助する	0 (0.0 %)	2 (0.7 %)	94 (31.6 %)	201 (67.7 %)	0.300
x25 自然現象に関心をもつように援助する	0 (0.0 %)	20 (6.7 %)	151 (50.8 %)	126 (42.4 %)	0.300
x26 動物に触れる体験をもつように援助する	2 (0.7 %)	35 (11.8 %)	140 (47.1 %)	120 (40.3 %)	0.363
x27 生活の中で必要な言葉を身につけるように援助する	0 (0.0 %)	5 (1.7 %)	101 (34.0 %)	191 (64.3 %)	0.300
x28 友達と関わりあう楽しさを味わうように援助する	0 (0.0 %)	31 (10.4 %)	145 (48.8 %)	121 (40.8 %)	0.300
x29 気持ちを合わせて歌うことを楽しむように援助する	2 (0.7 %)	32 (10.8 %)	126 (42.4 %)	137 (46.1 %)	0.300

注1: %は、四捨五入のために100%にならない場合がある。
注2: 修正済み項目合計相関 (CITC) の数字は、0.4以下であった項目のみ記す。
注3: 網掛けは、除外対象とした項目を表す。

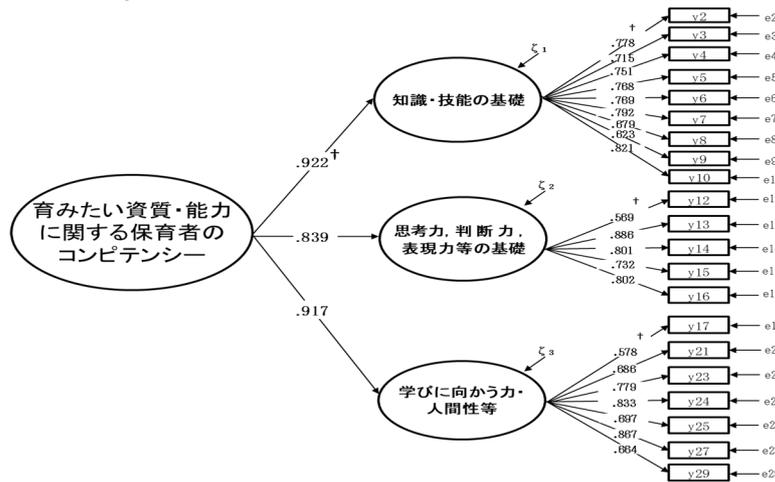
表3 育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー項目間の相関係数

	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	x10	x11	x12	x13	x14	x15	x16	x17	x18	x19	x20	x21	x22	x23	x24	x25	x26	x27	x28				
x2	0.872																															
x3	0.583	0.645																														
x4	0.682	0.669	0.590																													
x5	0.621	0.638	0.602	0.501																												
x6	0.562	0.651	0.589	0.521	0.758																											
x7	0.540	0.586	0.510	0.574	0.568	0.675																										
x8	0.353	0.467	0.342	0.445	0.411	0.547	0.490																									
x9	0.272	0.387	0.428	0.365	0.435	0.463	0.523	0.531																								
x10	0.560	0.543	0.597	0.661	0.581	0.499	0.552	0.488	0.559																							
x11	0.564	0.637	0.533	0.651	0.557	0.509	0.577	0.493	0.333	0.751																						
x12	0.262	0.294	0.351	0.299	0.263	0.218	0.359	0.361	0.264	0.346	0.391																					
x13	0.629	0.536	0.474	0.642	0.482	0.574	0.568	0.449	0.360	0.696	0.818	0.428																				
x14	0.375	0.437	0.317	0.387	0.505	0.510	0.414	0.504	0.480	0.399	0.368	0.460	0.372																			
x15	0.201	0.417	0.304	0.237	0.394	0.395	0.375	0.514	0.495	0.339	0.168	0.482	0.249	0.729																		
x16	0.447	0.383	0.363	0.466	0.355	0.442	0.503	0.386	0.389	0.635	0.663	0.442	0.739	0.436	0.364																	
x17	0.516	0.428	0.308	0.373	0.389	0.326	0.406	0.380	0.286	0.288	0.354	0.284	0.356	0.378	0.160	0.340																
x18	0.519	0.379	0.594	0.594	0.370	0.426	0.510	0.333	0.199	0.482	0.656	0.292	0.643	0.157	0.057	0.538	0.439															
x19	0.378	0.379	0.501	0.535	0.291	0.234	0.461	0.315	0.068	0.464	0.598	0.163	0.539	0.123	0.057	0.317	0.336	0.824														
x20	0.468	0.446	0.536	0.579	0.335	0.475	0.425	0.461	0.184	0.454	0.557	0.203	0.559	0.155	0.103	0.421	0.397	0.858	0.759													
x21	0.514	0.440	0.352	0.470	0.419	0.435	0.409	0.540	0.290	0.465	0.360	0.339	0.513	0.417	0.383	0.460	0.553	0.338	0.301	0.425												
x22	0.428	0.397	0.381	0.421	0.360	0.348	0.437	0.360	0.152	0.442	0.514	0.231	0.531	0.226	0.144	0.554	0.449	0.597	0.440	0.512	0.706											
x23	0.493	0.444	0.559	0.541	0.541	0.431	0.490	0.347	0.239	0.517	0.620	0.331	0.602	0.163	0.141	0.540	0.486	0.645	0.579	0.503	0.561	0.857										
x24	0.482	0.534	0.477	0.496	0.488	0.467	0.613	0.457	0.331	0.669	0.714	0.422	0.682	0.346	0.270	0.590	0.377	0.597	0.504	0.516	0.497	0.705	0.798									
x25	0.435	0.455	0.343	0.431	0.447	0.341	0.638	0.355	0.294	0.399	0.494	0.460	0.334	0.395	0.410	0.422	0.459	0.407	0.253	0.268	0.445	0.369	0.437	0.645								
x26	0.308	0.269	0.290	0.240	0.326	0.109	0.369	0.196	0.340	0.209	0.178	0.244	0.268	0.186	0.201	0.315	0.388	0.215	0.184	0.102	0.243	0.258	0.315	0.328	0.568							
x27	0.705	0.649	0.512	0.561	0.632	0.536	0.562	0.414	0.445	0.695	0.727	0.324	0.692	0.328	0.233	0.671	0.466	0.510	0.403	0.464	0.513	0.565	0.628	0.645	0.600	0.476						
x28	0.304	0.350	0.406	0.316	0.387	0.373	0.399	0.420	0.339	0.367	0.368	0.282	0.335	0.360	0.364	0.401	0.384	0.431	0.337	0.330	0.382	0.422	0.462	0.446	0.300	0.249	0.474					
x29	0.366	0.395	0.409	0.320	0.460	0.460	0.428	0.437	0.311	0.463	0.509	0.279	0.385	0.421	0.426	0.483	0.409	0.448	0.336	0.381	0.448	0.493	0.560	0.538	0.399	0.275	0.577	0.855				

注1：太字は、項目間の多分相関係数が0.8以上であった数値である。

PNTCS-QA の構成概念妥当性と信頼性の検討

前記の解析を基礎に、本研究においてはPNTCS-QAの因子構造モデルを、「知識・技能の基礎を育む保育者のコンピテンシー（9項目）」「思考力、判断力、表現力等の基礎を育む保育者のコンピテンシー（5項目）」「学びに向かう力・人間性等を育む保育者のコンピテンシー（7項目）」を下位因子とする3因子二次因子構造モデルとした。この因子構造モデルのデータへの適合度は、RMSEAが0.077、CFIが0.947であった（図1）。なお、「育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー」から3つの下位因子（潜在変数）に向かう因子負荷量について、「知識・技能の基礎を育む保育者のコンピテンシー」は0.922、「思考力、判断力、表現力等の基礎を育む保育者のコンピテンシー」は0.839、「学びに向かう力・人間性等を育む保育者のコンピテンシー」は0.917であった。3つの下位因子（潜在変数）から21の質問項目（観測変数）に向かう因子負荷量は0.569~0.886であり、すべて統計学的に有意であった。PNTCS-QAの信頼性を検討するために、Cronbachの信頼性係数を算出したところ、21項目全体のcronbach's α信頼性係数は、0.908であった。



n=297、RMSEA=0.077、CFI=0.947、cronbach's α=0.908

図1 育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー測定尺度の構成概念妥当性(標準化解釈)

4. 研究成果

PNTCS-QAの3因子二次因子構造モデルはデータに適合し、また内的整合性の側面から見た信頼性も適切な範囲にあった。別言するなら、PNTCS-QAは、下に「知識・技能の基礎を育む保育者のコンピテンシー」「思考力、判断力、表現力等の基礎を育む保育者のコンピテンシー」「学びに向かう力・人間性等を育む保育者のコンピテンシー」という3因子を備えた「育みたい資質・

能力に関する保育者のコンピテンシーの概念」が一次元性を備えており、またその因子を構成する 21 項目は加算性があることを意味している。

保健医療分野の専門職と比較して、保育者を対象としたコンピテンシー測定尺度に関する研究がほとんど見当たらない中、PNTCS-QA を開発する過程にて、教育要領（文部科学省 2017）、保育指針（厚生労働省 2017a）、教育・保育要領（内閣府 2017）において示された概念規定に即した上で、幅広い領域におけるコンピテンシーの概念やその因子構造を参考に、幼児教育・保育の領域におけるコンピテンシーの概念を明らかにできたことは、本研究の大きな成果と言える。

近年、教育要領、保育指針及び教育・保育要領が改定・改訂（文部科学省 2017；厚生労働省 2017a；内閣府 2017）された状況を踏まえ、指定保育士養成施設の指定及び運営基準の一部改正（厚生労働省 2018b）が行われた。この改正では、保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容において、「育みたい資質・能力」を念頭に置き、子どもの生活や遊びが充実するよう援助する力を習得させるといふ、幼児教育の実践力の向上（厚生労働省 2017b；2017c）を求めている。

今回開発した PNTCS-QA では、「育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー」に関して、一次元性を持つ項目群が選定されているとともに、確認的因子分析による因子構造モデルの適切さが検証されている。このような PNTCS-QA は、保育者のコンピテンシーの水準に対する客観的な評価、また、育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシーが、子ども達の円滑な保幼小接続を促進していくという概念との因果性の検討などに活用でき、教育や実践に資する知見の蓄積にとって貢献できるものと推察される。

文献

- 井上祐子 (2014) 「保育者効力感に関する研究動向と課題」『鹿児島純心女子大学国際人間学部紀要』20 : 47-62・168 .
- 井上祐子・高橋順一・中嶋和夫・黒木保博 (2019) 「保育者のケアリング測定尺度に関する批判的論評」『鹿児島純心女子大学国際人間学部紀要』25 : 31-47・112 .
- 厚生労働省 (2017a) 「保育所保育指針」(<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-1190000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000160000.pdf>, 2021.11.5.)
- 厚生労働省 (2017b) 「別添 1 保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について」(<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/betten1.pdf>, 2022.3.22.)
- 厚生労働省 (2017c) 「(概要)『保育士養成課程等の見直しについて(検討の整理)』」(https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/gaiyou_3.pdf, 2022.3.22.)
- 厚生労働省 (2018a) 「保育所保育指針解説」(<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf>, 2018.12.12.)
- 厚生労働省 (2018b) 「『指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について』の一部改正について」(<https://www.hoyokyo.or.jp/member015.pdf>, 2022.3.22.)
- 文部科学省 (2008) 「学士課程教育の構築に向けて(答申)」(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/080410.htm, 2020.6.9.)
- 文部科学省 (2016) 「幼児教育部会における審議の取りまとめ」(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/057/sonota/_icsFiles/afieldfile/2016/09/12/1377007_01_4.pdf, 2018.12.12.)
- 文部科学省 (2017) 「幼稚園教育要領」https://www.mext.go.jp/content/1384661_3_2.pdf, 2021.11.5.)
- 文部科学省 (2018) 「幼稚園教育要領解説」(https://www.mext.go.jp/content/1384661_3_3.pdf, 2018.12.12.)
- 内閣府 (2017) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(<https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/kokujibun.pdf>, 2021.11.5.)
- 内閣府 (2018) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf, 2018.12.12.)
- 西山修 (2005) 「幼児の人とかかわる力を育むための保育者効力感尺度の開発」『乳幼児教育学研究』14 : 101-108.
- 西山修 (2006) 「幼児の人とかかわる力を育むための多次元保育者効力感尺度の作成」『保育学研究』44 (2) : 246-256.
- Peek, M. K. (2000) Structural equation modeling and rehabilitation research, *American Journal of Physical Medicine and Rehabilitation*, 79 (3): 301-9 .
- Spencer, Jr.L.M., and Spencer, Signe M. (1993) *Competence at work : models for superior performance*. John Wiley & Sons, Inc. (=2011, 梅津祐良・成田攻・横山哲夫訳『コンピテンシー・マネジメントの展開 : 導入・構築・活用』生産性出版 : 3-19.)
- 豊田秀樹 (2003) 『共分散構造分析「疑問編」 - 構造方程式モデリング - 』朝倉書店.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 井上祐子	4. 巻 15
2. 論文標題 2017年告示保育所保育指針からみる乳児保育における愛着形成に関する支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 25 - 33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井上祐子	4. 巻 15
2. 論文標題 2017年告示保育所保育指針からみる幼児と保育者の愛着形成に関する支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 35 - 42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井上祐子・高橋順一・姜民護・黒木保博	4. 巻 27
2. 論文標題 職業人としての基礎能力の育成におけるコンピテンシー測定尺度の開発過程に関する批判的論評	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鹿児島純心女子大学人間教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 25-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井上祐子	4. 巻 26
2. 論文標題 2017年告示保育所保育指針における保育内容5領域の変遷の背景と方向性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鹿児島純心女子大学人間教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 3 - 21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井上祐子・姜民護・高橋順一・黒木保博	4. 巻 26
2. 論文標題 保育内容に関する保育者のコンピテンシーの研究動向と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鹿児島純心女子大学人間教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 23 - 37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井上祐子・姜民護・高橋順一・黒木保博	4. 巻 25
2. 論文標題 育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテシー測定尺度の開発	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 チャイルド・サイエンス	6. 最初と最後の頁 29-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 井上祐子・姜民護・高橋順一・黒木保博
2. 発表標題 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に関する保育者のコンピテンシー測定尺度の開発
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上祐子・姜民護・高橋順一・黒木保博
2. 発表標題 育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー測定尺度の開発研究
3. 学会等名 日本社会福祉学会第69回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上祐子・姜民護・高橋順一・黒木保博
2. 発表標題 保育内容に関する保育者のコンピテンシーの研究動向と課題
3. 学会等名 日本社会福祉学会第67回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関